

紅りょうぜん(べにりょうぜん)

登録番号：第1410号

育成者：菅野幸男

登録年月日：昭和62年8月7日

来歴：「マンモス・カージナル」と

登録者：菅野幸男（福島県伊達郡靈山町大字泉原字新田30番地）

「大石早生」の交雑実生

特性

■栽培特性

樹勢は強く若木では立ちぎみとなる。樹の大きさはやや大きい。枝の発生はやや粗で、花束状短果枝の着生は良好である。若木のうちは、亜主枝あるいは主枝の誘引を行い、適正な樹形構成を心がける必要がある。また、発育枝の発生は「ソルダム」程度で多くないので骨組み枝を確保するために主幹あるいは主枝の切り返しを適宜行う必要がある。整枝剪定は「ソルダム」に準じて行う。

開花期は育成地の福島県靈山町で4月中旬で、「大石早生」より2日程度遅い。花粉は多く、結実は良好で収量は中程度である。自家不和合性であるが「大石早生」との混植園では結実は良好であると言われる。

収穫期は育成地で7月17日から20日頃となり、「大石早生」より2週間ほど遅く、「サンタローザ」より約10日早く収穫される早生品種である。

完熟果の果皮色は暗赤色となるが、収穫適期は果皮が濃赤色となった時期でそれ以前では酸味が強く品質は劣る。また、過熟果は果肉が柔らかく日持ちが不良となるので収穫適期の幅は狭く、適正な熟期の把握が重要である。

■果実特性

平均果重は100g程度でこの時期のスモモとしては大きく、玉揃いも良好である。果形は円形で果頂部がやや尖る。果皮の着色は多く、全面に及び、完熟果は暗赤色となる。いわゆる着色先行型で、果皮が鮮紅色では適熟期に達しておらず、果肉の成熟は着色の開始から数日遅れる。黄緑色の鮮明な果点が果実全面に入る。果面のさびが少し発生するが、外観は良好である。

果肉は淡黄色～黄色で、適熟果は「サンタローザ」と同様に果皮直下に中程度の紅色素が入る。肉質は締り良好である。ただし、適熟期を過ぎると果肉の軟化が早く輸送性が不良となる。糖度（屈折計示度）は適熟果で13%前後となり、この時期の品種としては高く、果実pHは4.0程度で、食味は比較的良好である。空洞果の発生は見られない。果頂部の裂果が、多い年で10～20%くらい発生する。

■病虫害抵抗性または栽培上の留意点

灰星病の発生は「大石早生」より多く感受性であると推定されるが、通常の防除により発生を抑制することが可能である。年により黒斑病が少し発生するので、風当りの強い場所では防風対策が必要である。

本品種は着色先行型で着色が十分果皮全面に及んでから収穫可能となるが、適熟期を過ぎると「太陽」ほど日持ち性はなく、収穫適期の幅が狭いので、良品果を得るためには収穫適期の判定を適切に行うことが重要である。

■地域適応性

この時期には他に優れた品種がなく、本品種の普及性は高いと考えられる。せん孔細菌病に罹病性であることから、風当りの強い地域での栽培は不利であると推定されるが、既存のスモモ栽培地域では栽培が可能である。

(山口正己)